

『発掘調査'12』

平成24年度 発掘調査・文化財速報



松殿跡 山頂を囲む土塁の調査



松殿山荘 大玄関・中玄関



松殿跡の発掘調査

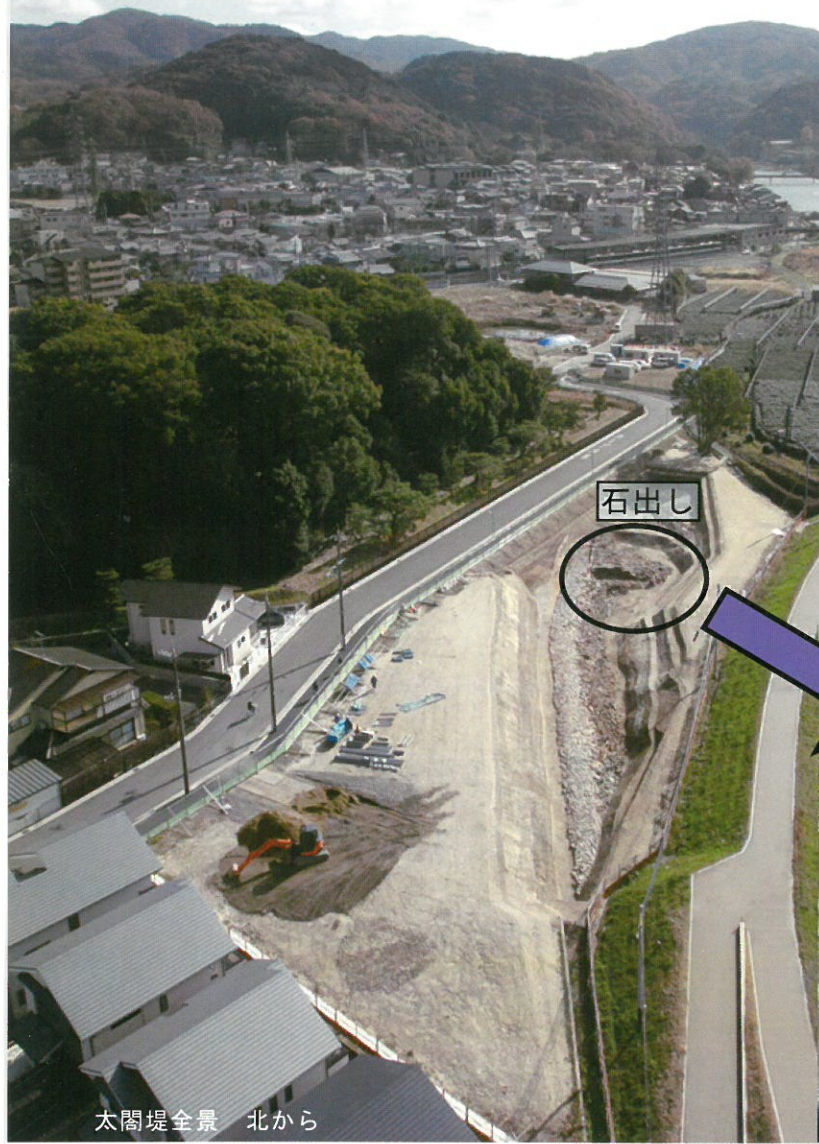
まつどのあと
松殿跡は宇治市木幡にあり、平安時代末の関白、藤原基房が営んだ邸宅である「松殿」の跡と伝えられています。今年度から初めての発掘調査を開始しました。また、現在は、大正時代に建てられた山荘流茶道の修養道場である松殿山荘があります。この山荘の建物は京都を代表する近代和風建築のひとつです。敷地内は方形と円形をモチーフにしたデザインが基本となる建物や庭園で構成されています。



松殿跡 調査風景

宇治市歴史まちづくり推進課

宇治川太閤堤跡発掘・整備速報



太閤堤全景 北から

■ 太閤堤とは？

史跡宇治川太閤堤跡は、宇治橋下流右岸に400m以上にわたって造られた護岸遺跡です。この護岸は、豊臣秀吉によって築造された「太閤堤」の一部にあたります。また、太閤堤は治水に関する重要な遺跡であるだけでなく、堤を造ることで川沿いにできた砂州部が、お茶の木の生育に適していたことから、宇治の茶生産を発展させることに貢献した遺跡でもあります。



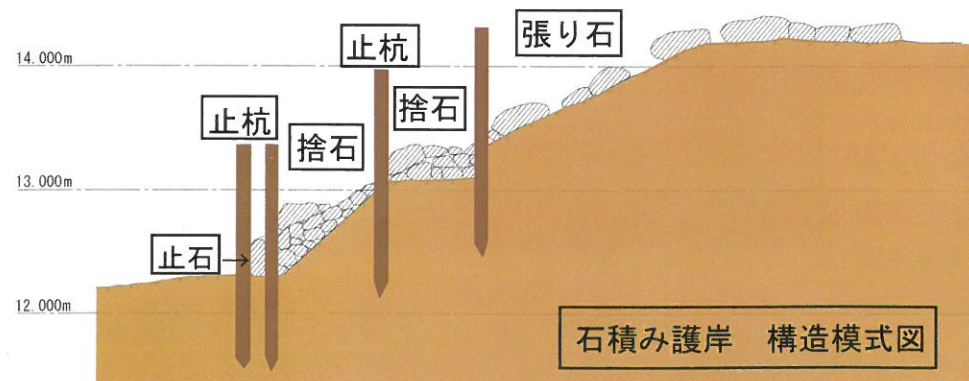
太閤堤石出し 西から

■ 再調査でわかったこと

今年度は整備のために再発掘を行いました。その結果、石を積み上げた護岸や、水の流れを制御するために造られた石出しの全体を検出しています。護岸は、上半部を張り石で美しく仕上げ、下半部は杭と大量の石で丈夫につくっています。また、裾には大きな石を据えて、斜面を覆う石が流されないようにしています。石出しは、水流が直接当たる上流側はやや後ろに傾き、激しい水流にさらされる先端部分は、新しく石を積みなおしていることがわかりました。



太閤堤 北から



石積み護岸 構造模式図

■ 公開イベント

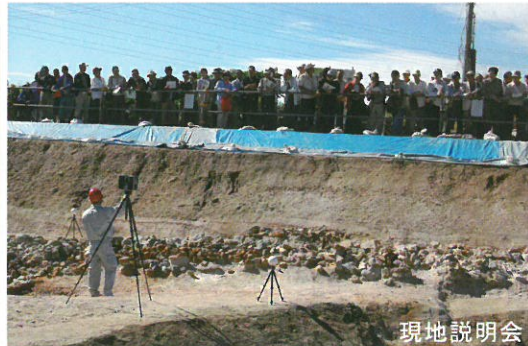
調査期間中は、発掘の様子を一般公開しました。また週末には、スタンプラリーや現地説明会など各種イベントを行い、今後の整備計画や遺跡を再現する際の技術について解説を行いました。12月8日に行われた埋め戻し前の最終イベントでは、整備し未来へ残していく太閤堤に自分の夢を埋めよう！という企画を行い、見学に来た子供たちに将来の夢を木簡に書いてもらいました。この木簡は太閤堤に埋められ、一緒に保存されます。



最終公開イベント



現地説明会

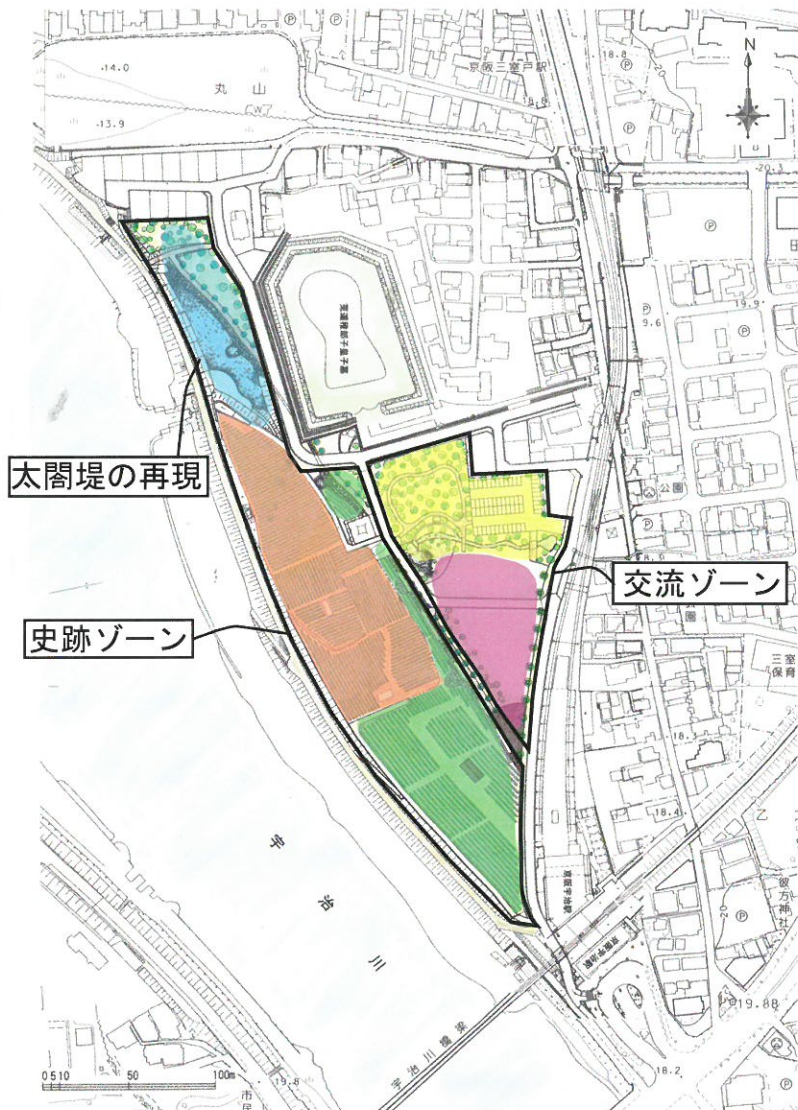


現地説明会



最終公開イベント

太閤堤整備予定図→



■ これからの太閤堤

今後は太閤堤を活用した公園の整備を行います。今年度に調査をした場所では、本物の護岸の直上に護岸を再現します。再現は、3次元測量データに基づいて、GRC(ガラス繊維強化コンクリート)と実物の石で作る予定です。このGRCは、形状だけでなく質感まで詳細に再現できるものとして近年注目されている素材です。これらの技術によって、太閤堤の大迫力を地上に完全再現していきます。また、宇治の歴史や文化、宇治茶の情報を発信する施設を整備し、市民や来訪者が幅広く利用できる公園にしていきたいと考えています。



〔実物〕



太閤堤 型取り



〔復元〕

中世のおもむき残す宇治の祭

—宇治市無形民俗文化財 大幣神事—



① 巡行する大幣神事の行列



① 大幣殿前の祭神勧請



④ 御旅所前から馬を走らせる神事



③ 辻ごとで行われる所作



② 宇治橋西詰での祭儀



⑤ 破壊した大幣を引きずり走る



⑥ 大幣を宇治川に投げ入れる

たいへいしんじ 大幣神事：毎年6月8日に行われる神事で、疫神を追い祓うための祭です。神事では宇治郷内を巡行して大幣に疫神を集め、最後は宇治川に大幣を投げ捨てます。その他にも巡行の中で様々な儀式や所作を行います。神事の内容などから起源は、京都市の祇園祭と同じく中世まで遡ることができる伝統ある宇治の祭です。平成24年3月に市指定文化財に登録されました。

えきじん

たいへい